



平成30年度

編入学生募集要項

(学校案内を含む)

事 項	学 力 選 抜
願 書 受 付 期 間	平成29年7月10日(月) ～平成29年7月14日(金)
試 験 日	平成29年9月4日(月)
合 格 発 表 日 時	平成29年9月11日(月) 10時
入 学 手 続 日	平成30年3月14日(水)

※「合格通知書」は合格発表日時以降に発送します

独立行政法人国立高等専門学校機構
北九州工業高等専門学校

National Institute of Technology, Kitakyushu College

〒802-0985 北九州市小倉南区志井5丁目20番1号

電 話 (093) 964-7232 学生課教務係

F A X (093) 964-7236 学生課

U R L <http://www.kct.ac.jp>

目 次

編入学生募集要項

アドミッション・ポリシー

(「北九州高専が求める学生像」と「入学者選抜の基本方針」)	1
1. 募集学科（コース）及び募集人員	1
2. 出願資格	1
3. 志望コース	1
4. 願書受付期間及び場所	
(1) 受付期間	2
(2) 受付場所及び問い合わせ先	2
5. 出願手続	2
6. 選抜方法	
(1) 学力検査科目及び出題範囲	3
(2) 学力検査及び面接の日時	4
(3) 学力検査場	4
7. 合格者発表	4
8. 個人情報取扱	4
9. 入学手続	4
10. その他	5

学 校 案 内	6～19
---------	------

出願書類

(本校ウェブサイトに掲載しております http://www.kct.ac.jp/nyushi/hennyugaku_boshu.html)

1. 編入学志願書、写真票・受検票・検定料振込受付証明書貼付票
2. 入学検定料の振込について
3. 住所票

4. 願書受付期間及び場所

(1) 受付期間

平成29年7月10日(月)から平成29年7月14日(金)まで。

受付時間は、9時から16時までとする。

郵送の場合は、平成29年7月14日(金)16時必着とする。

(2) 受付場所及び問い合わせ先

〒802-0985 北九州市小倉南区志井5丁目20番1号

北九州工業高等専門学校 学生課教務係

TEL (093) 964-7232

FAX (093) 964-7236

5. 出願手続

志願者は、次の出願書類等を一括し、各注意事項を確認の上、提出すること。

- (1) 編入学志願書 本校所定の用紙を使用すること。
- (2) 写真票・受検票 本校所定の用紙に必要事項を記入し、写真を所定の位置に貼付する。
写真は、上半身・正面向き・脱帽・無背景(縦4.5cm×横3.5cm)で、出願以前3か月以内に撮影したもの。
- (3) 調査書 出身学校所定の用紙により、学校長が作成し厳封したもの。
- (4) 卒業証明書又は卒業見込証明書 出身学校所定の用紙で作成したもの。
- (5) 住所票 「合格通知書」等を送付するためのもので、本校所定の用紙にその通知を受ける住所、氏名、郵便番号を記入したもの。
- (6) 検定料 16,500円
銀行または郵便局(ゆうちょ銀行)の窓口において振込のうえ、受付日付のある「振込受付証明書」または「振替払出請求書預金口座振替による振込受付書」を必ず受け取り、「検定料振込証明書貼付票」の所定の位置に貼付すること。
- (7) 返信用封筒 定形封筒(長型3号)に自己の住所、氏名、郵便番号を明記し、切手392円(簡易書留料金を含む)を貼ること。ただし、この封筒は、受検票等を郵送するためのもので、**出願書類等を持参する場合は不要。**

※出願に必要な書類は本校ウェブサイトからダウンロードして下さい。

(http://www.kct.ac.jp/nyushi/hennyugaku_boshu.html)

[注 意]

- (1) 出願書類等を郵送する場合は、簡易書留郵便とし、封筒の表に「**編入学出願書類在中**」と朱書すること。
- (2) 出願書類等の不備なものは受け付けない。
- (3) 出願書類等受理後は、記載事項の変更、書類の返還は一切行わない。
- (4) 納付された検定料は、次の場合を除き、返還は行わない。
ア. 検定料を納付したが出願しなかった場合
イ. 検定料を重複で納付した場合
- (5) 出願書類等に虚偽の記入をした者は、入学後でも入学許可を取り消すことがある。

6. 選抜方法

- ・機械創造システムコース・知能ロボットシステムコース・電気電子コース・情報システムコースを志望する者
 入学者の選抜は、学力検査及び調査書により総合判定する。
- ・物質化学コースを志望する者
 入学者の選抜は、学力検査、調査書及び面接により総合判定する。

(1) 学力検査科目及び出題範囲

学 力 検 査 科 目		出 題 範 囲	
(各コース共通)	共通科目	数 学	数学Ⅰ (データの分析 を含まない) 数学A (図形の性質 を含まない) 数学Ⅱ 数学B (確率分布と統計的な推測 を含まない)
		英 語	コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ
※専 門 科 目	出願資格(1)、(2)の者	機 械 創 造 シ ス テ ム コ ー ス	機械設計 (力と運動、材料の強さを含む) 機械工作 原動機 (熱や流体のエネルギーを含む) 機械製図
		知 能 ロ ボ ッ ト シ ス テ ム コ ー ス	機械設計 (力と運動、材料の強さを含む) 情報技術基礎 (C言語、論理回路) 生産システム技術
		電 気 電 子 コ ー ス	直流回路 交流回路 電気磁気
		情 報 シ ス テ ム コ ー ス	情報処理 (C言語、論理回路) 電気回路 (直流回路、単相の交流回路) 電子回路 (ダイオード回路、トランジスタ回路のみ)
	【 筆 記 試 験 】 物 質 化 学 コ ー ス	工業化学専門科目	
出願資格(3)～(5)の者	【 口 頭 試 問 】 機 械 創 造 シ ス テ ム コ ー ス 知 能 ロ ボ ッ ト シ ス テ ム コ ー ス 電 気 電 子 コ ー ス 情 報 シ ス テ ム コ ー ス	物理基礎、物理	
	【 筆 記 試 験 】 物 質 化 学 コ ー ス	化学基礎、化学	

※機械創造システムコース・知能ロボットシステムコース・電気電子コース・情報システムコースの専門科目は、口頭試問で行う。

物質化学コースの専門科目は、筆記試験で行う。

(2) 学力検査及び面接の日時

月 日	検 査 科 目	時 間	
		機械創造システム・ 知能ロボットシステム・ 電気電子・情報システムコース	物質化学コース
9月4日(月)	集 合 時 間	9 : 4 0	
	共通科目	数 学	1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 0 0
		英 語	1 1 : 1 0 ~ 1 2 : 1 0
	専 門 科 目	1 3 : 1 0 ~	1 3 : 1 0 ~ 1 5 : 1 0
	面 接		1 5 : 2 0 ~

※専門科目の試験には、電卓の使用を認める。ただし、プログラム機能付きのものは認めない。

※口頭試問は1人につき20分程度、面接は1人につき10分程度である。

(3) 学力検査場 北九州工業高等専門学校

7. 合格者発表

平成29年9月11日(月) 10時

本校に掲示するとともに、合格者には合格通知書、在籍または出身学校長には選抜結果の通知書を上記日時以降に発送します。

また、本校ウェブサイト (<http://www.kct.ac.jp>) にも掲載します。(合格発表日の10時頃を予定。当日の通信環境の状況等により遅れる場合があります。)

なお、電話等による可否の問い合わせには応じられません。

8. 個人情報の取扱い

入学志願者から提出された志願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた試験成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報は、入学者選抜の資料として利用するとともに、次の目的のためにも利用します。

- (1) 入学後の教育・指導
- (2) 入学料、授業料免除申請の審査
- (3) 奨学金申請の審査
- (4) 本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究

9. 入学手続

入学手続は次により行うが、詳細については合格者に別途通知する。

- (1) 日 程 平成30年3月14日(水)
- (2) 場 所 北九州工業高等専門学校
- (3) その他 所定の日時内に入学手続きを完了しない者は、入学を許可しない。

10. その他

身体に障害等がある入学志願者は、本校に事前に相談すること。

本校に入学を志願するもので、身体に障害等（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱等）がある者、または発達障害者支援法で規定する障害等がある者で、受検上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、次により申し出ること。

(1) 申し出の期限

平成29年7月7日（金）

(2) 申し出の方法

必要事項を記載した申請書（様式は任意）に医師の診断書又は身体障害者手帳の写しを添付して提出すること。

必要な場合は、本校において志願者及び保護者・在籍または出身学校関係者等と面談を行うことがある。

なお、申請書は原則として在籍または出身学校を経由して提出すること。

「申請書記載事項」

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| ア. 氏名、志望コース | イ. 障害等の種類、程度 |
| ウ. 受検上特別の配慮を希望する事項 | エ. 修学上特別の配慮を希望する事項 |
| オ. 在籍または出身学校でとられていた特別な措置 | カ. 日常生活の状況 |

学 校 案 内

1. 本校の創設及び沿革

我が国産業の目覚ましい発展に伴い、科学技術者の養成が強く要望され、昭和37年度から新たな学校制度としての高等専門学校が発足した。

北九州工業高等専門学校は、この新しい高等教育機関の1つとして工業に関する専門教育を受け、産業の興隆並びに文化の発展に貢献し得る有能な技術者を育成するため、昭和40年4月1日工業都市北九州市に創設された。当時は、機械工学科（定員80名）、電気工学科（定員40名）の2学科で発足したが、昭和45年度には化学工学科（定員40名）、昭和62年度には電子制御工学科（定員40名）が新たに増設され、平成元年度には、従来の機械工学科（定員80名）が、機械工学科（定員40名）と制御情報工学科（定員40名）の2学科に改組された。平成10年度には、化学工学科が物質化学工学科に改組され、平成14年度には、電気工学科が電気電子工学科に改名された。平成16年度には、独立行政法人国立高等専門学校機構法により独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する北九州工業高等専門学校となった。平成27年度には準学士課程の高度化・再編を図り、5学科が生産デザイン工学科の1学科（第3学年から、機械創造システム、知能ロボットシステム、電気電子、情報システム、物質化学の5コース）に改組された。

また、平成8年度には、生産工学専攻、制御工学専攻、化学工学専攻の3専攻をもつ専攻科（大学課程相当）が設置された。平成16年度には、化学工学専攻が物質化学工学専攻に改名された。更に、平成27年度から3専攻を統合し生産デザイン工学専攻に改組された。平成18年5月には、準学士課程第4学年から専攻科第2学年までの4年間の「生産デザイン工学」教育プログラムが、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けた。これによって、国際的に通用する技術者を育成するための教育プログラムとして認められている。

2. 本校の教育目的及び具体的な目標

本校では、「明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成」を目指し、次のような3つの教育目的を掲げ、さらに具体的にA～Gに示す学習・教育目標を設定して学生の指導にあたっている。

（教育目的）

- ☆ 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
- ☆ 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得
- ☆ 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

（学習・教育目標）

A 技術内容を理解できる基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者

- ① 数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

B 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

- ① 専門分野における工学の基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

C 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

- ① 実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
- ② 機器類（装置・計測器・コンピュータなど）を用いて、データを収集し、処理できる。
- ③ 実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
- ④ 実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

D 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

- ①専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を総合し、活用できる。
- ②工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
- ③工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

E 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

- ①歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
- ②日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
- ③英語によるコミュニケーションの基礎能力（読解・記述・会話）を身に付ける。

F 歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境とのかかわりを考えることのできる技術者

- ①歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
- ②工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
- ③技術者としての役割と責任を認識できる。

G 社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者

- ①健やかな心身をもち、社会性、協調性を身に付ける。
- ②社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

3. 「生産デザイン工学」教育プログラム

平成16年度からは、「生産デザイン工学」教育プログラムを設定している。この教育プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けたもので、編入学直後の第4学年次から第5学年次を経て、専攻科第1および第2学年次までの4年間を対象としている。編入学者は全員この教育プログラムの少なくとも前期2年間の履修対象者となる。

4. 所在地

〒802 - 0985 北九州市小倉南区志井5丁目20番1号

JR小倉駅からJR日田彦山線で志井公園駅まで約20分（下車徒歩15分）、JR小倉駅前バス停から主に34・36番系統バスで北九州高専前バス停まで約40分（下車徒歩2分）、小倉駅からモノレールで志井駅又は企救丘駅まで約18分（下車徒歩15分）。都心を離れた閑静な地に位置し、勉学に極めて恵まれた環境にある。

5. 教育課程

一般科目

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必 修 科 目	国 語	国 語 I	2	2				
		国 語 II	2		2			
		現 代 文	2		2			
		近 代 文 学	2			2		
	社 会	地 理	2	2				
		公 共 倫 理	2		2			
		歴 史	2		2			
	数 学	現 代 社 会	2			2		
		基 礎 数 学 I	4	4				
		基 礎 数 学 II	2	2				
微 分 積 分 I		4		4				
微 分 積 分 II		4			4			
代 数 幾 何 I		2		2				
理 科	代 数 幾 何 II	2			2			
	物 理 I	4		4				
	化 学	4	2	2				
保 健 ・ 体 育	総 合 科 学	2	2					
	保 健	1	1					
	体 育 I	2	2					
	体 育 II	2		2				
	体 育 III	2			2			
外 国 語	生 涯 ス ポ ー ツ	2				2		
	音 楽	1	1					
	英 語 A	英 語 A I	4	4				
		英 語 A II	4		4			
		英 語 A III	2			2		
	英 語 B	英 語 A IV	2				2	
		英 語 B I	2	2				
英 語 B II		2			2			
英 語 C		2				2		
必 修 科 目 単 位 数 計		72	24	24	16	6	2	
選 択 科 目	第 2 外 国 語	ド イ ツ 語	2		2			2 単 位 修 得
		中 国 語	2		2			
		韓 国 語	2		2			
	一 般 総 合 選 択	日 本 語	2			2		留 学 生 科 目、留 学 生 は ド イ ツ 語 ・ 中 国 語 ・ 韓 国 語 の い ず れ か に 替 え 2 単 位 修 得
		日 本 文 学 論	1				1	前 期 ・ 後 期 前 期 で 1 単 位 後 期 で 1 単 位 修 得
		社 会 特 論	1				1	
		体 育 特 論	1				1	
		数 学 演 習	1				1	
		数 学 特 論	1				1	
		英 語 特 論	1				1	
英 語 演 習	1				1			
社 会 選 択	文 化 交 流 史	4			2	2	4 年 で 2 単 位、 5 年 で 2 単 位 修 得	
	哲 学 ・ 倫 理 学	4			2	2		
	文 化 地 理 学	4			2	2		
	法 学	2			1	1		
	経 済 学	2			1	1		
選 択 科 目 開 設 単 位 数 計		※29			※6	15	8	
選 択 科 目 修 得 単 位 数 計		8			2	4	2	
開 設 単 位 数 計		※101	24	24	※22	21	10	
修 得 単 位 数 計		80	24	24	18	10	4	

※ 留 学 生 科 目 を 除 いた 単 位 数

専門基礎共通科目

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当		備 考
			1年	2年	
必 修 科 目	情 報 リ テ ラ シ ー	1	1		
	情 報 処 理 I	1	1		
	情 報 処 理 II	2		2	
	基 礎 製 図 I	1	1		
	基 礎 製 図 II	2		2	
	電 気 基 礎	1		1	
	材 料 基 礎	1		1	
	工 学 基 礎 I	2	2		
	工 学 基 礎 II	2		2	
	工 学 基 礎 実 験 I	2	2		
	工 学 基 礎 実 験 II	2		2	
専 門 基 礎 共 通 科 目 開 設 単 位 数 計	17	7	10		
専 門 基 礎 共 通 科 目 修 得 単 位 数 計	17	7	10		
一 般 科 目 開 設 単 位 数 計	48	24	24		
一 般 科 目 修 得 単 位 数 計	48	24	24		
開 設 総 単 位 数 計	65	31	34		
修 得 総 単 位 数 計	65	31	34		

機械創造システムコース

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当			備 考
			3年	4年	5年	
必 修 科 目	物 理 II	2	2			
	応 用 数 学	2		2		
	確 率 ・ 統 計 基 礎	1			1	
	数 値 計 算 法	1		1		
	材 料 学	2	2			
	機 構 学	1	1			
	工 業 力 学	2	2			
	材 料 力 学 I	2	2			
	材 料 力 学 II	2		2		
	熱 力 学	2		2		
	熱 機 関 工 学	2			2	
	伝 熱 工 学	2			2	
	水 力 学	2		2		
	流 体 力 学	2			2	
	機 械 工 作 法	2	2			
	機 械 加 工 学	1		1		
	設 計 工 学	2		2		
	機 械 工 学 演 習	1		1		
	創 造 デ ザ イン 演 習 I	2		2		
	創 造 デ ザ イン 演 習 II	2		2		
創 造 デ ザ イン 演 習 III	2			2		
機 械 製 図	2	2				
振 動 工 学	1		1			
自 動 制 御 I	1		1			
自 動 制 御 II	1			1		
メカトロニクス工学	2			2		
工 業 英 語	1		1			
工 作 実 習	4	4				
機 械 工 学 実 験 I	2		2			
機 械 工 学 実 験 II	2			2		
卒 業 研 究	8			8		
必 修 科 目 単 位 数 計		61	17	22	22	
選 択 科 目	精 密 加 工 学	1		1		3単位以上修得
	材 料 力 学 III	1		1		
	新 素 材 材 料 学	1		1		
	長 期 学 外 実 習	3		3		工作実習基礎は、工業高校以外からの編入学生のみ履修対象で必修である。
	工 作 実 習 基 礎	1		1		
	学 外 実 習 I	1		1		4単位以上修得 ・「学外実習Ⅱ」は、「学外実習Ⅰ」を修得しておらず、かつ学科が承認した学外実習の場合にのみ認定される科目である。 ・「機械創造システム特論Ⅰ・Ⅱ」は、学科が承認した他高専・大学等による講義・実習を履修した場合に認定される科目である。単位の認定は別に定める。
	学 外 実 習 II	1			1	
	C A E 演 習	1			1	
	応 用 物 理	1			1	
	基 礎 デ ィ ジ タ ル 回 路	1			1	
	ロ ボ ッ ト 工 学	1			1	
	工 業 英 語 演 習	1			1	
	品 質 管 理	1			1	
	機 械 創 造 シ ス テ ム 特 論 I	1		1		
機 械 創 造 シ ス テ ム 特 論 II	1			1		
材 料 力 学 概 論	1			1	前期・後期 材料力学概論、メカトロニクス概論以外から、前期と後期で1単位ずつ修得	
基 礎 カ ー エ レ ク ト ロ ニ ク ス	1			1		
コ ン ピ ュ ー タ 概 論	1			1		
メカトロニクス概論	1			1		
物 質 化 学 工 学 概 論	1			1		
選 択 科 目 開 設 単 位 数 計		22		9	13	
選 択 科 目 修 得 単 位 数 計		9		3(4)[5]	6(5)[4]	4年生の選択科目の修得によって、5年生の選択科目の修得単位数が変わる。
専 門 科 目 開 設 単 位 数 計		83	17	31	35	
専 門 科 目 修 得 単 位 数 計		70	17	25(26)[27]	28(27)[26]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。
一 般 科 目 開 設 単 位 数 計		※53	※22	21	10	
一 般 科 目 修 得 単 位 数 計		32	18	10	4	
開 設 総 単 位 数 計		※136	※39	52	45	
修 得 総 単 位 数 計		102	35	35(36)[37]	32(31)[30]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。

※ 留学生科目を除いた単位数

知能ロボットシステムコース

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当			備 考
		3年	4年	5年	
必 修 科 目	物 理 II	2	2		
	知能ロボットシステム概論	1	1		
	力 学	1	1		
	材 料 力 学 I	2	2		
	材 料 力 学 II	1		1	
	機 構 学	1	1		
	機 械 工 作 法	1	1		
	工 作 実 習	2	2		
	インターフェース工学	1	1		
	組込み技術演習Ⅰ	2	2		
	組込み技術演習Ⅱ	2	2		
	プログラミング	1	1		
	情報処理技術演習	1	1		
	応 用 数 学 I	2		2	
	応 用 数 学 II	1			1
	機 械 力 学	2		2	
	熱 力 学	2		2	
	水 力 学	2		2	
	機 械 設 計	2		2	
	制 御 工 学	2		2	
	創造ロボット演習Ⅰ	4		4	
	創造ロボット演習Ⅱ	3			3
	アルゴリズム	1		1	
コンピュータアーキテクチャ	1		1		
知能ロボットシステム実験Ⅰ	2		2		
知能ロボットシステム実験Ⅱ	2			2	
熱システム工学	1			1	
流 体 学	2			2	
ロボット制御演習	1			1	
ロ ボ ッ ト 工 学	1			1	
システム制御工学	2			2	
メカトロニクス工学	2			2	
数 値 計 算 法	2			2	
卒 業 研 究	8			8	
必修科目単位数計	63	17	21	25	
選 択 科 目	長 期 学 外 実 習	3		3	3単位修得
	プロジェクト演習	3		3	
	学 外 実 習 I	1		1	2単位以上修得 ・「学外実習Ⅱ」は、「学外実習Ⅰ」を取得 しておらず、かつ学科が承認した学外実習の 場合にのみ認定される科目である。 ・「知能ロボットシステム特論Ⅰ・Ⅱ」は、 学科が承認した他高専・大学等による講義・ 実習を履修した場合に認定される科目であ る。単位の認定は別に定める。
	学 外 実 習 II	1		1	
	品 質 管 理	1		1	
	図 形 処 理 工 学	1		1	
	知能ロボットシステム特論Ⅰ	1		1	前期・後期 材料力学概論、メカトロニクス 概論以外から、前期と後期 で1単位ずつ修得
	知能ロボットシステム特論Ⅱ	1		1	
	材 料 力 学 概 論	1		1	
	基礎カーエレクトロニクス	1		1	
	コンピュータ概論	1		1	
メカトロニクス概論	1		1		
物質化学工学概論	1		1		
選択科目開設単位数計	17		8	9	
選択科目修得単位数計	7		3(4)[5]	4(3)[2]	4年生の選択科目の修得によって、5年生の選択科目の修得単位数が変わる。
専門科目開設単位数計	80	17	29	34	
専門科目修得単位数計	70	17	24(25)[26]	29(28)[27]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。
一般科目開設単位数計	※53	※22	21	10	
一般科目修得単位数計	32	18	10	4	
開設総単位数計	※133	※39	50	44	
修得総単位数計	102	35	34(35)[36]	33(32)[31]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。

※ 留学生科目を除いた単位数

電気電子コース

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当			備 考
		3年	4年	5年	
必 修 科 目	物 理 II	2	2		
	電 子 回 路 設 計	1	1		
	電 気 機 器 設 計	1		1	
	情 報 処 理 III	1	1		
	電 気 回 路 I	2	2		
	電 気 回 路 II	2		2	
	電 気 磁 気 学 I	2	2		
	電 気 磁 気 学 II	2		2	
	電 子 回 路 I	2	2		
	電 子 回 路 II	2		2	
	電 気 機 器 I	2	2		
	電 気 機 器 II	1		1	
	電 気 電 子 工 学 実 験 I	4	4		
	電 気 電 子 工 学 実 験 II	4		4	
	応 用 数 学 I	2		2	
	応 用 数 学 II	2			2
	応 用 物 理	2		2	
	電 気 電 子 工 学 演 習 I	1		1	
	電 気 電 子 計 測 工 学	1		1	
	電 子 工 学	1		1	
	基 礎 制 御 工 学 I	2		2	
	基 礎 制 御 工 学 II	1			1
	パ ワ ー エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス I	1		1	
	パ ワ ー エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス II	1			1
	電 子 回 路 製 作 実 習	1		1	
	数 値 計 算 法	1			1
	電 気 電 子 材 料	1			1
	高 電 圧 工 学	2			2
	通 信 工 学	1			1
	電 力 シ ス テ ム 工 学	2			2
エ ネ ル ギ ー 変 換 工 学	1			1	
工 業 英 語	1			1	
電 気 法 規 及 び 施 設 管 理	1			1	
電 気 電 子 工 学 実 験 III	2			2	
卒 業 研 究	8			8	
必 修 科 目 単 位 数 計	63	16	22	25	
選 択 科 目	情 報 処 理 IV	1	1		3単位修得
	電 気 電 子 工 学 演 習 II	1	1		
	電 気 電 子 工 学 演 習 III	1	1		
	カ ー エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス	1	1		
	長 期 学 外 実 習	3	3		2単位以上修得
	学 外 実 習	1	1		
	電 気 電 子 工 学 特 論 I	1	1		・「電気電子工学特論Ⅰ・Ⅱ」は、学科が承認した他高専・大学等による講義・実習を履修した場合に認定される科目である。単位の認定は別に定める。
	電 気 電 子 工 学 特 論 II	1		1	
	基 礎 オ プ ト エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス	1		1	
	パ ワ ー エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス 演 習	1		1	
	電 気 回 路 III	1		1	
	数 値 計 算 演 習	1		1	
	材 料 力 学 概 論	1		1	
基 礎 カ ー エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス	1		1	前期・後期 基礎カーエレクトロニクス以外から、前期と後期で1単位ずつ修得	
コ ン ピ ュ ー タ 概 論	1		1		
メ カ ト ロ ニ ッ ク ス 概 論	1		1		
物 質 化 学 工 学 概 論	1		1		
選 択 科 目 開 設 単 位 数 計	19		9	10	
選 択 科 目 修 得 単 位 数 計	7		3(4)[5]	4(3)[2]	4年生の選択科目の修得によって、5年生の選択科目の修得単位数が変わる。
専 門 科 目 開 設 単 位 数 計	82	16	31	35	
専 門 科 目 修 得 単 位 数 計	70	16	25(26)[27]	29(28)[27]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。
一 般 科 目 開 設 単 位 数 計	※53	※22	21	10	
一 般 科 目 修 得 単 位 数 計	32	18	10	4	
開 設 総 単 位 数 計	※135	※38	52	45	
修 得 総 単 位 数 計	102	34	35(36)[37]	33(32)[31]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。

※ 留学生科目を除いた単位数

情報システムコース

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当			備 考	
		3年	4年	5年		
必 修 科 目	物 理 II	2	2			
	電 気 磁 気 学 I	2	2			
	電 気 磁 気 学 II	2		2		
	電 気 回 路	2	2			
	電 子 回 路 I	2	2			
	電 子 回 路 II	2		2		
	アルゴリズムとデータ構造 I	1	1			
	アルゴリズムとデータ構造 II	1	1			
	システムプログラミング I	1	1			
	システムプログラミング II	1	1			
	計 測 工 学	2	2			
	電子情報システム工学実験実習 I	4	4			
	電子情報システム工学実験実習 II	4		4		
	電子情報システム工学実験実習 III	2			2	
	応 用 数 学 I	2		2		
	応 用 数 学 II	2			2	
	過 渡 現 象 論	1		1		
	電 気 回 路 演 習	1		1		
	ネットワークプログラミング	2		2		
	ネットワーク構成論 I	1		1		
	ネットワーク構成論 II	1			1	
	情 報 基 礎	1		1		
	数 値 計 算 法 I	1		1		
	制 御 理 論 I	1		1		
	制 御 理 論 II	1		1		
	制 御 機 器 I	1		1		
	制 御 機 器 II	1			1	
	情報制御システム創造演習	1		1		
工 業 英 語	1			1		
デ ー タ ベ ー ス 基 礎	1			1		
信 号 処 理	2			2		
システム制御理論 I	1			1		
システム制御理論 II	1			1		
シミュレーション	1			1		
卒 業 研 究	8			8		
必修科目単位数計	60	18	21	21		
選 択 科 目	画 像 処 理	1		1	3 単位修得	
	数 値 計 算 法 II	1		1		
	プログラミング演習	1		1		
	長期学外実習	3		3		
	プロジェクトマネジメント演習	2			2	2 単位修得
	システム制御演習	2			2	
	学 外 実 習 I	1		1	3 単位以上修得 ・「学外実習 II」は、「学外実習 I」を修得しておらず、かつ学科が承認した学外実習の場合にのみ認定される科目である。 ・「情報システム特論 I・II」は、学科が承認した他高専・大学等による講義・実習を履修した場合に認定される科目である。単位の認定は別に定める。	
	学 外 実 習 II	1				
	情 報 技 術 概 論	1		1		
	シ ス テ ム 工 学	1		1		
	人 工 知 能	1		1		
	ロ ボ ッ ト 工 学	1		1		
	情報システム特論 I	1		1		
	情報システム特論 II	1	1			
材 料 力 学 概 論	1			1		
基礎カーエレクトロニクス	1			1		
コンピュータ概論	1			1		
メカトロニクス概論	1			1		
物質化学工学概論	1			1		
選択科目開設単位数計	23	0	8	15		
選択科目修得単位数計	10		3(4)[5]	7(6)[5]	4年生の選択科目の修得によって、5年生の選択科目の修得単位数が変わる。	
専門科目開設単位数計	83	18	29	36		
専門科目修得単位数計	70	18	24(25)[26]	28(27)[26]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。	
一般科目開設単位数計	※53	※22	21	10		
一般科目修得単位数計	32	18	10	4		
開設総単位数計	※136	※40	50	46		
修得総単位数計	102	36	34(35)[36]	32(31)[30]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。	

※ 留学生科目を除いた単位数

物質化学コース

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当			備 考	
			3年	4年	5年		
必 修 科 目	分 析 化 学 I	1	1				
	分 析 化 学 II	1	1				
	無 機 化 学 I	1	1				
	無 機 化 学 II	1	1				
	有 機 化 学 I	1	1				
	有 機 化 学 II	1	1				
	有 機 化 学 III	1		1			
	有 機 化 学 IV	1		1			
	生 物 化 学 I	1	1				
	生 物 化 学 II	1	1				
	物 理 化 学 I	1	1				
	物 理 化 学 II	1	1				
	物 理 化 学 III	1		1			
	物 理 化 学 IV	1		1			
	物 理 化 学 V	1			1		
	物 質 化 学 演 習 I	1	1				
	物 質 化 学 演 習 II	1	1				
	物 質 化 学 演 習 III	1		1			
	物 質 化 学 演 習 II	2	2				
	物 質 化 学 実 験 I	2	2				
	物 質 化 学 実 験 II	2	2				
	高 分 子 化 学 I	1		1			
	高 分 子 化 学 II	1		1			
	化 学 工 学 I	2		2			
	化 学 工 学 II	2		2			
化 学 数 学	2		2				
応 用 物 理 I	1		1				
応 用 物 理 II	1		1				
工 業 英 語	1		1				
物 理 化 学 実 験	2		2				
環 境 資 源 エ ネ ル ギ ー 工 学	1			1			
基 礎 生 物 化 学 工 学 I	1			1			
基 礎 生 物 化 学 工 学 II	1			1			
生 物 反 応 工 学	1			1			
物 質 化 学 卒 業 研 究 輪 講	2			2			
卒 業 研 究	8			8			
共 通 必 修 科 目 単 位 数 計	51	18	18	15			
応 用 化 学 系 必 修 科 目	計 算 機 化 学	1		1			
	無 機 化 学 III	1		1			
	無 機 化 学 IV	1		1			
	応 用 化 学 工 学 実 験	2		2			
	化 学 工 学 演 習	1			1		
	化 学 媒 体 化 学	1			1		
	物 質 工 学 I	1			1		
	物 質 工 学 II	1			1		
	化 学 反 応 工 学	1			1		
	応 用 化 学 演 習 実 験	1			1		
機 器 分 析 実 験	2			2			
応 用 化 学 系 必 修 科 目 単 位 数 計	13		5	8			
応 用 生 物 系 必 修 科 目	生 物 材 料 化 学	1		1			
	食 品 工 学 I	1		1			
	食 品 工 学 II	1		1			
	生 物 工 学 実 験	2		2			
	発 酵 工 学	1			1		
	応 用 生 物 演 習	1			1		
	微 生 物 工 学 I	1			1		
	微 生 物 工 学 II	1			1		
	応 用 生 物 工 学 I	1			1		
応 用 生 物 工 学 II	1			1			
生 物 化 学 工 学 実 験	2			2			
応 用 生 物 系 必 修 科 目 単 位 数 計	13		5	8			
共 通 選 択 科 目	長 期 学 外 実 習	3		3			
	品 質 管 理	1		1			
	宏 全 工 学	1		1			
	構 造 解 析 学	1		1			
	遺 伝 子 工 学	1		1			
	高 分 子 化 学 III	1			1		
	応 用 有 機 化 学	1			1		
	材 料 力 学 概 論	1			1		
	基 礎 カ ー エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス	1			1		
	コ ン ピ ュ ー タ 概 論	1			1		
メ カ ト ロ ニ ッ ク ス 概 論	1			1			
物 質 化 学 工 学 概 論	1			1			
共 通 選 択 科 目 開 設 単 位 数 計	15		8	7			
共 通 選 択 科 目 修 得 単 位 数 計	6		2(3)[4]	4(3)[2]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。		
専 門 科 目 開 設 単 位 数 計	92	18	36	38			
専 門 科 目 修 得 単 位 数 計	70	18	25(26)[27]	27(26)[25]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。		
一 般 科 目 開 設 単 位 数 計	※53	※22	21	10			
一 般 科 目 修 得 単 位 数 計	32	18	10	4			
開 設 総 単 位 数 計	※145	※40	57	48			
修 得 総 単 位 数 計	102	36	35(36)[37]	31(30)[29]	4年生の修得単位数によって、5年生の修得単位数が変わる。		

※ 留学生科目を除いた単位数

6. コース紹介

(1) 機械創造システムコース

機械創造システムコースでは、高度な生産システム（電気、情報、制御）に対応し、新たな技術を創造するための基礎学力（数学、自然科学、情報）と自己学習能力を持つ技術者の育成を目指している。最近、自動車や家電などのものづくり産業において、その急速な技術の進歩は製造機械のみに留まらず、情報・制御機器にまで及び従来のものづくりの形態が大きく変わり、より多様化しています。設計に必要なイメージの具現化から加工・計測に至るまでをコンピュータで行う CAE（CAD、CAM）の技術も要求されている。そのため、機械工学をベースとした基礎知識の習得と制御、情報、化学分野にも幅広く対応出来る技術者の養成を行う。

本コースには、上述した知識を学ぶことで取得可能な「機械設計技術者試験 3 級」、「3 次元 CAD 利用技術者試験 2 級および準 1 級」等の資格に加え、所定の単位を習得し卒業後に企業等で実務経験を積むことで取得可能な「ボイラー・タービン主任技術者（第 1 種、第 2 種）」（申請のみ）などがある。

(2) 知能ロボットシステムコース

知能ロボットシステムコースでは、機械に知能を与えることができる、すなわちロボットを作ることができる技術者の育成を目的に、機械工学を柱に、ロボット設計技術、組込み技術、センシング技術、インターフェース技術、知能化情報技術、システム制御技術、それらを繋ぐシステム統合化技術を論理的かつ実践的に修得できる教育課程を設置している。人間が知能や感覚によって行ってきた複雑な作業を機械に行わせるためには、機械自身が、周囲の情報（環境や状態）を正確に把握し、その情報に基づいて論理的に思考し、その思考によって動作しなければならない。さらに、このようなロボットを実現する技術は、身の回りの多くの製品に用いられるようになり、ロボットによる多様なサービスが創出される未来社会では、社会的課題の解決にも直結する技術である。したがって、ユーザーの視点や社会実装における課題に対して、ロボット技術を駆使して自ら解決策を提案・デザインできる優れた人材を育成するために、創造的に考える力を養う教科横断的な専門科目を配置した。

本コースでは、受検できる資格試験として「情報処理技術者試験」、「3 次元 CAD 利用技術者試験」、「機械設計技術者試験」、「組込みソフトウェア技術者試験」などがある。

(3) 電気電子コース

電気電子コースでは、自ら学び続けることで、急速な技術の変化に対応でき、あらゆる分野・場所で活躍できる電気電子技術者の育成を目指している。編入学後は、高等学校で学んだ工学基礎を土台として、電気電子工学（電気、電子、情報、機器）の専門的な知識・技術を学ぶ。卒業生が電気主任技術者として認定されるのに必要な科目・実験を十分実施しながらも、これからの地域・産業界のニーズに応えるため、エネルギーインフラ、ロボット・自動車産業にとって重要なパワーエレクトロニクス教育に重点を置いている。また、次世代自動車産業に貢献する人材育成のため、全コース対象のカーエレクトロニクス科目を新設する。自主性、独創性、課題解決能力を身に付けた電気電子技術者育成のために、プロジェクト実習、PBL を行う電子回路設計、電子回路製作実習を設定した。5 年生では、電気電子工学の知識・技術を工学分野の課題解決に活用するとともに、多様性のあるチームでの共同作業について学べるようにしている。

本コースで所定の単位を取得し卒業後に企業等で実務経験を積むことで、国家資格・第 2 種または第 3 種電気主任技術者（実務経験の内容と経験年数によって異なる）の取得が可能である。また、本コースの卒業生は、国家資格・第 2 種電気工事士の受験において筆記試験が免除される。ただし、高等学校での履修科目によっては上記の資格が得られない場合がある。

(4) 情報システムコース

情報システムコースでは、情報産業および情報技術を必要とする製造業において、高度情報化社会の技術変化に柔軟に対応できる理解力と創造力を持った実践的な技術者の育成を目指している。

コンピュータ応用分野において、コンピュータシステム、ネットワークシステム、情報通信システム、計測・制御システムなどICT（情報通信技術）を活用したシステムの計画、解析、設計、開発、構築、運用などを行うには、システムのソフトウェアとハードウェアの両方の技術を理解したうえで対応することが必要となる。そのため、本コースでは、これらのシステムにおけるソフトウェアとハードウェアの知識と技術が体系的に身につくように教育課程を構成している。低学年では、電気電子工学、情報工学分野の専門基礎科目を学び、これらを土台として高学年では、情報工学分野とシステム制御工学分野のハードウェアとソフトウェアに関連する専門科目を体系的に学習する。また講義内容の理解を深め、実践的な応用力を育成するために、各学年で演習や実験実習を行う。

本コースの教育課程は、国家資格である基本情報技術者試験（FE）の内容にも対応している。

(5) 物質化学コース

物質化学コースでは、物質化学が関わる環境保全、クリーンエネルギー、高機能性素材、食品、医薬品、資源有効活用など多様な産業分野に対応するために、多様化・複雑化した問題に対処し得る工学知識や実践的技術を修得した実践的な技術者の育成を目指している。応用化学系では、無機・有機ナノ材料の合成や物性評価、化学工学を学び、新素材開発や低炭素化技術への応用を修得する。具体的には、応用化学の専門知識を新しい物質・材料の開発に適用する方法が考えられる技術者、応用化学の専門知識を利用し、物質・材料の性質を的確に評価する方法が考えられる技術者の養成を行う。応用生物系では、生物（細胞や微生物を利用した）生産を学び、その検査への展開を修得する。具体的には、応用生物の基礎知識と技術を身に付けて、生物産業（食品、医薬品、環境技術）に貢献する能力を身に付けた技術者、応用生物に関するより専門的な技術を身に付けて、食品・医薬品・環境技術の生産や品質管理技術に関する専門的能力を身に付けた技術者の養成を行う。

本コースでは、卒業後に修得できる主な資格として「毒物劇物取扱責任者（資格取得（受験なし）」、「危険物取扱者（甲乙）（受験資格：卒業すれば得られる）」、「衛生工学衛生管理者（受験資格：卒業すれば得られる）」、「衛生管理者（1種、2種）（受験資格：実務経験1年以上）」および「作業環境測定士（受験資格：実務経験1年以上）」などがある。

7. 専攻科の概要

本校専攻科には高専本科卒業生を受入れて、2年間の高度な技術教育を行う「生産デザイン工学専攻」が設置されている。社会情勢、産業構造や工業技術が劇的に変化し続ける現代、これまで以上に、融合複合領域に対応できる幅広い視野と高い課題設定・解決能力を持ち、地域及びグローバルに連携・協働できる、実践的かつ創造的技術者の養成が求められている。このような社会的・地域的要請に応えるため、本校専攻科では、専門工学の深化とともに、これからのモノ作りに必要とされる【高度融合複合教育】を実施する。

8. 課外活動

課外活動とは、正課の授業時間外に行う学生の組織的な諸活動のすべてをいう。その活動を通して自己を生かし、組織の発展に寄与することは将来指導的立場に就く者にとって極めて貴重な経験である。このため本校の課外活動は、学校行事と併せ、学生が自主的に行うサークル活動が各方面にわたって活発に行われている。サークルには次のようなものがある。

◎ 体 育 関 係

硬式野球部、バレーボール部、卓球部、バスケットボール部、ラグビー部、サッカー部、陸上部、水泳部、柔道部、剣道部、ハンドボール部、ソフトテニス部、テニス部、バドミントン部、弓道部、空手道部

◎ 文 化 関 係

ブラスバンド部、写真部、英会話研究部、コンピュータ研究部、美術部

◎ 愛 好 会 ・ 研 究 会 等

郵便友の会、ギターコーラス同好会、文学愛好会、宇宙科学研究会、ロボコン、将棋愛好会、化学愛好会、ロボットデザイン研究会、KOSEN FabLab、数学愛好会

9. 入学時に必要な諸経費（予定額）

入 学 料	84,600 円
授 業 料（前期分）	117,300 円（年額 234,600 円）
教 科 書 代 約	35,000 円
教 材 費 約	30,000 円
体育文化関係費他	62,400 円
合 計	約 329,300 円

※上記の納付金額は予定額であり、入学時及び在学中に学生納付金改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金額が適用される。

10. 奨学金制度

独立行政法人日本学生支援機構法に基づき、学業・人物が優れ、健康であり学資支弁困難と認められる者に対しては、選考の上、奨学金が貸与される。（貸与月額は、平成 29 年度分）

第 一 種 奨 学 金 (無 利 子)	貸 与 月 額		
	自 宅 通 学	45,000 円	30,000 円
	自 宅 外 通 学	51,000 円	

第 二 種 奨 学 金 (有 利 子)	貸 与 月 額
	30,000 円
	50,000 円
	80,000 円
	100,000 円
120,000 円	

このほかに、県、市及び財団法人等による奨学金制度が数種ある。

11. 入学科、授業料の免除制度

(1) 次の場合には、入学科免除の申請ができる。

ア. 入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者が死亡し、又は学資負担者が風水害等の災害を受け、入学科の納付が困難と認められる場合

イ. 前号に準ずる場合であって、校長が相当と認める事由がある場合、全額又は半額を免除される。

(2) 次の場合には、授業料免除の申請ができる。

ア. 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合

イ. 入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難と認められる場合

ウ. 前号に準ずる場合であって、校長が相当と認める事由がある場合、全額又は半額を免除される

(3) 次の場合には、入学料徴収猶予の申請ができる。

- ア. 経済的理由によって納付期限までに納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合
- イ. 入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学手続き終了の日までに納付が困難であると認められる場合
- ウ. その他やむを得ない事由があると認められる場合

12. 学生寮

本校には、学校敷地内に学生寮が設置されている。

高専の学生寮は、共同生活を通じての有為な人間形成を設置の主目的としている。そのため本校では、規律ある生活を通して互いに切磋琢磨しながら、協調心や忍耐力、他人への思いやりの心を養い、将来信頼される技術者になれるようにとの教育的見地から適切な生活指導を行っている。

寮生は、通学に時間がかからないため、時間的に余裕を持って、勉学や課外活動に励むことができるので、通学に長時間を要する者については、入寮することを勧める。学生寮の入寮定員は165名（うち女子学生28名）である。月額寮費（食費、光熱費、水道料等）は約50,000円である。

13. 就職状況

求人は就職希望者の10倍以上あり、就職率は例年ほぼ100%である。

なお、卒業生の主な就職先は下記を参照。

- ・ 機械創造システムコース

<http://w3-mech.kct.ac.jp/career/>

- ・ 知能ロボットシステムコース

http://w3-cise.kct.ac.jp/grad_job.html

- ・ 電気電子コース

<http://w3-eee.kct.ac.jp/career/>

- ・ 情報システムコース

<http://itss.apps.kct.ac.jp/career>

- ・ 物質化学コース

<http://w3-chem.kct.ac.jp/shinro/index.htm>

14. 卒業後の進学

本校は、卒業生の、約半数が北九州高専専攻科や国立大学工学部を始めとして、理学部、経済学部などに進学している。更に、専攻科修了生の約半数は大学院に進学している。

なお、主な進学先は次のとおりである。

(高専卒業生)

【国公立大学】		【私立大学】
岩手大学	京都工芸繊維大学	上智大学
東北大学	奈良教育大学	日本大学
秋田大学	大阪大学	慶応義塾大学
茨城大学	大阪府立大学	東京都市大学
筑波大学	神戸大学	岡山理科大学
埼玉大学	兵庫県立大学	福岡工業大学
千葉大学	岡山大学	
東京大学	岡山県立大学	
東京農工大学	広島大学	
東京工業大学	山口大学	
首都大学東京	徳島大学	
電気通信大学	香川大学	
横浜国立大学	愛媛大学	
新潟大学	九州大学	
長岡技術科学大学	九州工業大学	
金沢大学	北九州市立大学	
福井大学	佐賀大学	
山梨大学	長崎大学	
信州大学	熊本大学	
岐阜大学	大分大学	
静岡大学	宮崎大学	
名古屋大学	鹿児島大学	
豊橋技術科学大学	琉球大学	
三重大学	北九州高専専攻科	
京都大学		

(専攻科修了生)

【国公立大学】		【私立大学】
筑波大学大学院	九州工業大学大学院	早稲田大学大学院
東京大学大学院	北九州市立大学大学院	
東京工業大学大学院	熊本大学大学院	
豊橋技術科学大学大学院	宮崎大学大学院	
大阪大学大学院	鹿児島大学大学院	
島根大学大学院	北陸先端科学技術大学院大学	
広島大学大学院	奈良先端科学技術大学院大学	
九州大学大学院	総合研究大学院大学	